

教 科	芸術	科 目	美術 I
単 位 数	2単位	学年・類型	第1学年・全クラス（選択）
使用教科書	高校生の美術1（日本文教出版）		
補助教材等			

1 学習目標

美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深めます。

2 学習方法

学習は大きく「表現」と「鑑賞」と「理論」に分かれます。表現では絵画、デザイン、彫刻など、作品制作を通して美術の幅広い創造活動に取り組みます。鑑賞では制作した作品を鑑賞するだけでなく、日本や世界の美術の歴史や文化に触れながら活動を行います。「理論」では美術活動の基本となる考え方や技法について学習します。表現・鑑賞・理論ともに積極的な姿勢で授業に臨み、美的感覚を磨き、美術文化の理解を進めましょう。

3 学習評価

(1) 評価の観点と方法

観点 \ 評価	評 価 の 観 点	評 価 の 方 法
知識・技能	色彩や形態、素材の特性などを考えながら、主題を生成し、その表現方法を工夫している。	○課題の提出状況 ○制作への取組状況
思考・判断・表現	色彩や形態、素材の特性などを考えながら、主題を生成し、その表現方法を工夫している。 美術作品から感じ取ったことを、言葉として表現し、他者に伝えるとともに、それを自分の制作や生活に結び付けようとしている。	○作品制作の内容 ○自己評価の内容 ○鑑賞プリントの内容 ○相互評価の内容 ○鑑賞の感想の内容
主体的に学習に取り組む態度	色彩や形態、表現の主題など美術の要素に関心を持ち、表現や鑑賞の活動に主体的に取り組もうとしている。	○授業態度 ○課題の提出状況 ○制作への取組状況

(2) 各学期及び学年末の評価

各学期の評価は、作品制作、授業態度、課題の提出状況とその内容を総合して行います。学年末の評価は、1・2・3学期の評価を平均して行います。

4 学習のポイント

- 「作る」だけではなく「見る」「感じる」「考える」「伝える」ことにも意識して授業に主体的に臨みましょう。
- 学んだことを生かして、普段の生活を美術的な観点から眺められるようにしましょう。
- 美術に間違った回答はありません。感じたことを自由にのびのびと表現しましょう。
- 美術作品を通して生きるヒントとなる知恵や考え方を学びましょう。
- 物事の本質は全て目に見えるわけではなく、単純に善悪で分けることもできないということを感じましょう。

5 学習計画（予定）

月	学習項目	学習のねらい・学習活動
4	オリエンテーション	・美術とは何かを、「見る・考える・伝える」の観点から理解する。
5	鉛筆で描く	・鉛筆の削り方からトーン表現の仕方を学ぶ。
6	色の仕組みを知ろう 色相配色	・色相・彩度・明度の三属性と有彩色と無彩色等の基本を学ぶ。 ・色相による配色の方法を学ぶ。
7	絵の具で描く ポスターで伝える	・透明水彩と不透明水彩の表現の違いを体験する。 ・アクリル絵の具で静物画を描く。 ・ポスターの基礎を学ぶ。
8	遠近法 写真基礎	・遠近法の種類と透視図法の基本を学ぶ ・12の基本構図と撮影技法の基礎を学び、建物を中心とした撮影を行う。
9	私の見つけた風景	・撮影した画像とスケッチを基にした風景画を描く。 ・作品の鑑賞会を行う。
10	4コマ漫画	・顔や人体フォルムのプロポーションを学び、4コマ漫画を作成する。
11		
12	静物画	・デッサン、構図、質感表現などを学び、静物画を描く。
1		
2		
3		